

研究 主題	他者と関わり自己を見詰め、考えを深める道徳の授業を目指して －多様な考えに触れ、思考を高め共有するためのICT機器の活用を通して－
----------	--

第2学年道徳科学習指導案

指導月日 令和5年10月17日
 所属校名 宮城県立拓桃支援学校
 氏名 伊藤 有似子

1 主題名「助け合う友達 B友情、信頼」（「森のともだち」東京書籍 新しい道徳2）

2 主題のねらい

友達と互いに仲良く、助け合っていこうとする道徳的態度を育てる。

3 主題観

本主題は、学習指導要領に示されている指導内容の「友達と仲良くし、助け合うこと」と関連のある項目である。

この内容項目について、他学年との関連をまとめたものが以下の表である。

小学校第1学年及び 第2学年B	小学校第3学年及び 第4学年B	小学校第5学年及び 第6学年B	中学校B
友達と仲良くし、 助け合うこと。	友達と互いに理解 し、信頼し、助け合 うこと。	友達と互いに信頼 し、学び合って友情 を深め、異性につい ても理解しながら、 人間関係を築いてい くこと。	友情の尊さを理解して心から 信頼できる友達をもち、互いに 励まし合い、高め合うとともに、 異性についての理解を深め、 悩みや葛藤も経験しながら 人間関係を深めていくこと。

本校は、県内唯一の肢病併置の特別支援学校であり、児童生徒が病気の治療や訓練をしながら、日々学習に励んでいる。親元を離れて学校生活を送る本校の児童にとって、友達は、時に家族との関わりよりも多い時間を共にする存在になる。生活を共にし、遊び仲間として互いに影響し合う友達との関わりは、人間関係を築く上での基盤となる。

より良い人間関係を築くためには、互いに認め合い、協力し合うなど、様々な学習活動や生活場面で理解し、信頼できる存在であると感じることが大切である。そのためには、自己の考えや思いを伝えるだけでなく、他者がどのような考えや思いを持っているかを感じ取り、互いに理解しながら仲良く助け合う態度が重要になると考える。

4 児童の実態〔第2学年 4名〕

本研究対象児童の小学部2年生は、準ずる教育課程の肢体不自由学級3名と病弱学級1名の計4名である（10月17日現在）。転出入が多いことにより、通年、同じ仲間と学習することは少ない状況である。学校生活や入院生活の中で常に大人がいる環境にあるため、児童だけで過ごす時間や空間はほぼなく、それに加え、児童数が少なく、友達と衝突したり、折り合いを付けたりする経験も少ない。

しかし、休み時間には互いの話を聞き合ったり、クイズを出したりするなど、会話を楽しみ、友達との関わりに喜びを感じている。また、友達の治療や訓練の様子を見て励ましの声を掛けたり、頑張る姿を称賛したりするなど思いやりの心を持って接し、友達や仲間を大事にする様子も見受けられる。

学習においては、4月当初、自分の考えや思いに自信を持つことができなかつたり、考えや思いを言葉でどのように表現したらよいか分からなかつたりと、発言に対し消極的な姿勢が見られた。また、自分の考えを他者に伝える際には、「自分の考えとは違っても、正しいことを言うべきだ」「自分と正反対の意見だったら、話しにくい」等、本音を伝えることに抵抗感を示していた。しかし、自分の意見や考えを、教師や友達に認められることで自分の発言に自信を持てるようになってきた。さらに、自分と似た考えの友達がいると、うなずいたり付け加えたりして自分の考えを深めるなど、他者との関わりを経て多様な考えに触れ、学びを深める様子が増えてきている。

I C T機器の活用（タブレット端末）においては、本時で取り上げるアプリやWebサイトの扱いにも慣れ、写真画像を投稿したり、色や大きさを考えて他者が見た際により分かりやすく見やすいものに工夫したりする姿も見られる。文字入力に関しては、短い言葉であれば日本語かな入力をし、長文の際は、音声入力を使用するなどして、自己の考えを表現するツールとして活用している。

5 指導観

本資料は、森の動物たちが助け合い、励まし合う物語である。森の動物たちに乱暴していたきつねのこんきちが、おおかみに襲われた際、森の動物たちに助けられる。最後の場面では、仲間の大切さを感じ、自分が今まで行ってきた乱暴な振る舞いを反省し、後悔や情けなさから大泣きをするという内容である。

本時の学習では、森の動物たちは一匹一匹だとおおかみよりも弱い、悩みながらも同じ森に住む仲間だからこそ力を合わせて助けるべきだと一致団結するまでの心の葛藤や、森の動物の優しさや行動により、きつねの心が変わったことに気付かせていきたい。さらに、助けてもらったのに自分のことしか考えなかった情けなさや乱暴な振る舞いをしてしまったことへの後悔の気持ちを理解し、どのような友達とも助け合い、協力することで互いの心が通じ合うきっかけになることに気付けるようにする。そのために、登場人物のせりふを強調したり、具体的な動作を取り入れたりし、登場人物の置かれている状況や心情についてのイメージを捉えやすくしていく。

7の(2)児童の実態と個別のねらい及び評価の視点を踏まえながら、児童のそれぞれの考えた思いを受け止め、認めていく。そうすることで、児童が自分の考えを他者に素直に伝え、迷ったり悩んだりといった心が揺れ動く変化を感じ、自己を見詰めることで、人間理解、自己理解、他者理解を深めていく授業を展開していく。

6 研究主題との関連

(1) 自己を見詰める指導

道徳的価値を単に知識として理解するのではなく、自分事として捉えられるようにし、自己理解を深めながら、児童が自身の生き方をより良いものにしていこうという思いを持たせていきたい。そこで、他者、登場人物、自分との関わりを通して自己を見詰める授業を展開していく。

① 他者との関わり

心の数直線やワークシートに書いた自分の考えを、I C T機器を活用しながら共有し、互いの考えを伝え合う。他者の考えをよく見聞きしながら、自分と他者の相違について気づき、考えを深めさせていく。

② 登場人物との関わり

児童が役割演技を通して登場人物と関わることで、自分の行動や感じ方、考え方を再認識したり、相手の立場に立って行動する態度を身に付けたりでき、多面的・多角的な考えに広がるのではないかと考える。また、本音をなかなか話せない児童もいるため、役になりきることで話しやすくなり、安心して思考を深める手立てになると期待する。

③ 自分との関わり

導入時に本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持てるようにし、自己を見詰める時間を設ける。また、終末時再度同じ発問を行うことで、自分の考えの変化や深まりを感じることができ、これまでの自分を振り返るとともに、これからの生き方について自己を見詰める手立てになると考える。本時で扱う教材の登場人物の置かれた状況や、思いや考えの理解を深めながら、「もしも自分がその立場だったらどのように考えるのか」と自分事として考えられるように発問し、道徳的価値の理解を深められるようにする。

(2) 考え、話し合い、学びを深めるための指導

異なる教室で学習する児童同士が、学びを深められるよう、I C T機器を活用してオンラインで授業を行う。Web 会議システムを使用し、互いの顔を見たり、友達の意見を聞いたりしながら多様な考えに触れさせていく。また、Padlet（アプリケーション）を使用することで、互いの考えを視覚化することができ、聴覚情報に合わせて他者の意見を確認し、自分のペースで見返すことが可能となる。自分の考えと比較しながら思いを深め、他者に共感してもらったり、認められたりすることによって学ぶ意欲が高まり、主体的に取り組むことができると考える。

7 本時の計画

(1) 本時の指導に当たって

① 導入時

本時のねらいである、「友達と仲良くし助け合うこと」について自分の考えを持てるようにする。様々な立場の友達が転んで泣いている場合、自分だったら「助ける」「助けないか」の2つの選択肢で答え、課題をつかんでいく。題材に触れる前に自分自身の友達との関わりを振り返ることで、展開における森の動物たちの考えに共感したり、自分の考えを持ったりするための手立てになるようにする。自身の生活を振り返りながら、本時のねらいとする価値の方向付けを行い、教材を読み進めながら考えを深めていく。

② 展開時

教師の範読を聞き、自分がこの森に住む動物だったらこんきちを助けるかどうかを、心の数直線を用いて思考を表現する。心の数直線を使用することで、言葉では伝えられない葛藤や曖昧さを表現することができる。児童は、これまでも互いの考えを伝え合うことのできる有効なICTツールとして心の数直線を活用している。助けるかどうかの考えを共有しながら、なぜこんきちは、乱暴な振る舞いをしていたのかを考える。この発問によって、こんきちの涙する場面と対比して思考を深めることができ、心の変化を捉えやすくなるのではないかと期待する。

そして、乱暴なこんきちを森の動物たちが避けるようになったことを確認しながら、児童がそれぞれの動物になりきり、役割演技をしながら、助けるかどうかの自分の考えや思いを伝え、話し合いを通し思考を深められるようにする。その際、教師はうさぎ役となり、児童らの話し合いの様子を見ながら揺さぶりをかけ、葛藤したり迷ったりしながら登場人物の立場を超え、自分だったらどうするのかという思考で授業を展開できるようにする。中心発問では、乱暴をしていたこんきちが、なぜみんなの元へ戻って大声で泣いたのか理由を考える。また、自分のことしか考えていなかったこんきちの心の変化を感じながら、涙した理由が一つではないことに気付き、友達の優しさに触れたことによりこんきちの心や行動が変わってきたことを感じ取るようにしたい。

③ 終末時

児童自身が学習を通して、自分の考えの広がりや深まりを感じられるようにしていく。そして、これから自分の身の回りの友達とどう関わっていくか、自分の思いや考えを書き表していけるようにする。友達の良さを感じ、互いを理解した上で、仲良く助け合っていこうという気持ちを持てるように学習をまとめたい。

(2) 児童の実態と個別のねらい及び評価の視点 ※児童の実態に関しては、個人情報観点から掲載を控える。

	ねらい	評価の視点
A児	森の動物たちが助け合い励まし合う姿を見聞きし、友達との関係を築き深めるために、優しい気持ちで助けたり、協力したりしていこうとする心情を持つ。	森の動物たちの優しさに触れたことで、こんきちの気持ちが変わったことを感じ取り、友達に優しく接することが大切であることを感じ、今後どのように友達と関わっていくか考えようとしている。
B児	森の動物たちの優しさに触れたこんきちの心の変化を感じ取り、どのような友達にも手を差し伸べることで、互いを理解したり、心が通じるきっかけになったりすることを知る。	助けてもらったのに、自分のことしか考えていなかったことに涙するこんきちの気持ちを考え、今後自分が身の回りの友達に対し、どのように関わっていくべきか考えようとしている。
C児	森の動物たちが助け合い励まし合う姿に共感し、誰に対しても優しい気持ちで接することで、友達との関係が広がったり、深まったりすることを知る。	助けてもらったのに自分のことしか考えなかったことに涙するこんきちの気持ちを考え、仲の良さとは関係なく、様々な人と関わりを持ったり、助け合ったりすることで、新たな人間関係を築けることに気付く。
D児	優しい気持ちで助けたり、協力したりすることの大切さを知る。	森の動物たちの優しさに触れたことで、こんきちの気持ちが変わったことを感じ取り、友達に優しく接することが大切であることを気付く。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問◎中心発問・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◇評価（方法）
導入 5分	1 本時のねらいとなる道徳的価値について問題意識を持つ。 ○もし、①から④の友達が転んで泣いていたら、あなたは助けますか。 もし、①から④の友だちがころんでないでいたら、あなたはたすけますか。 たすけるは○、なやむは△をかくてください。 ・なかよしの友達は絶対助けたい。 ・学級の友達は、仲が良かったら助けられるけどなあ。 ・意地悪な人は、助けられないよ。 ・意地悪な人を助けるか悩むな。だって嫌な思いをしたことがあるから、優しくできないよ。 2 課題をつかむ。 友達を助けるとは、どういうことだろう。	・自分の生活を振り返り、考えを持てるようにする。 ・身近な友達や友達との関わりについて考えながら、思考を表現できるようにする。 ・教師の実体験を伝えて安心感を持たせ、児童が悩んだり決めかねていたりする場合は、共感しながら、本音を伝えやすい環境を作る。 ・自分の考えや思いを発言することが難しい場合は、ハンドサインで自分の思いを伝えられるようにする。
展開 30分	3 教師の範読を聞き、登場人物の心情を捉える。 4 心の数直線で考えを表現し、役割演技を行う。 ○おおかみにつかまったこんきちを、自分だったら助けますか。動物たちの立場になって考えてみよう。 ・友達だから助ける。 ・助けた方がよいと思う。 ・自分だったら助けてほしい。 ・いつも乱暴だから助けなくていい。 ・おおかみに食べられちゃうかもしれない。 ・助けても、また乱暴されるかもしれないよ。 ○なぜ、こんきちは乱暴をしていたと思いますか。 ・みんなよりも強いと思っていたんじゃない。 ・意地悪なんだよ。 ・こんきちより、みんなの方が小さいから弱いと思っていたんじゃないかな。 ・王様気分だったんじゃないかな。 ・もしかして、仲良くしたいのかもしれないな。	・通読せずに文を分けることで、場面ごとの内容を理解しやすくし、展開に合わせて、自分事として思考を深められるようにする。 ・役割演技を通して、本音を伝えにくい心の内を伝えられるようにし、自分事として考えを深められるようにする。 ・どの考えや思いも認め、児童の発言を尊重し、安心して発言できるような声掛けを行う。 ・役割演技の際、児童の会話をつなぎながら揺さぶりをかけて、児童の葛藤する気持ちや本音を引き出せるようにする。 ◇登場人物の置かれている立場や状況に共感し、自分だったらどうするかという立場で考えようとしているか。（発言） ・乱暴な振る舞いをするすることで、動物たちとの関わりを持とうとしていたことに気付かせ、こんきちの気持ちを考えられるようにする。

	◎「ごめんよ」と言いながら大声で泣き出した こんきちは、どんな気持ちだったのだろう。 ・乱暴なことばかりしてごめんね。反省しているよ。 ・助けてくれたのに、自分だけ逃げてごめんね。 ・もう乱暴なことは、しないよ。許してほしい。 ・助けてくれて、本当にありがとう。 ・助けてくれて、うれしかったよ。 ○こんきちと動物たちの仲は、これからどう なっていくのでしょうか。 ・すぐには仲良くなれないかもしれないけど、仲良くなれるはず。 ・きっと反省しているから、仲良くなれるはずだよ。 ・助け合うことの大切さを感じたから、仲良くなれるよ。	・一度は、夢中で逃げたこんきちの心情を理解した後、元の場所へ戻ることにしたのはなぜか考えられるようにする。 ・登場人物との関わりを通し、仲良くしたくても、素直に伝えられない気持ちを理解し、人間の弱さを感じられるようにする。 ・逃げたことへの情けなさの他に、助けてくれたことへの感謝や乱暴をしたことへの反省、謝罪の気持ちが考えられることを確認し、友達の良さを感じた涙であることを理解できるようにする。 ◇こんきちの心の変化を感じ取っている。 (ワークシート) ・森の動物たちの優しさが、こんきちの心の変化につながったことを振り返り、友達と仲良く助け合うことからつながる友情に気付かせる。
終 末 10 分	5 学習を振り返り、自己の生き方について考える。 ○今日の学習で心に残ったことや思ったことを書きましょう。 ・これまでは、仲の良い友達は自分から助けていたけど、これからは、あまり仲の良い友達じゃなくても助けたい。 ・これまでは、助けてもらうことが多かったから、自分も助けられるようになりたい。	・導入時の自分の考えと授業を通して考えたことを比べ、今後どのように友達と助け合っていくか振り返る時間を持つことで、自己を見つめ、考えを広げられるようにする。 ・書き進めることが難しい児童に対しては、これまでの自分の友達との関わりを振り返り、どのようにすればより良い関係が築けるのかを問う。 ◇他者との話合いを通し、感じ方や考え方は多様にあることに気付き、更に自己の考えを深めようとしているか。 (発言・ワークシート)

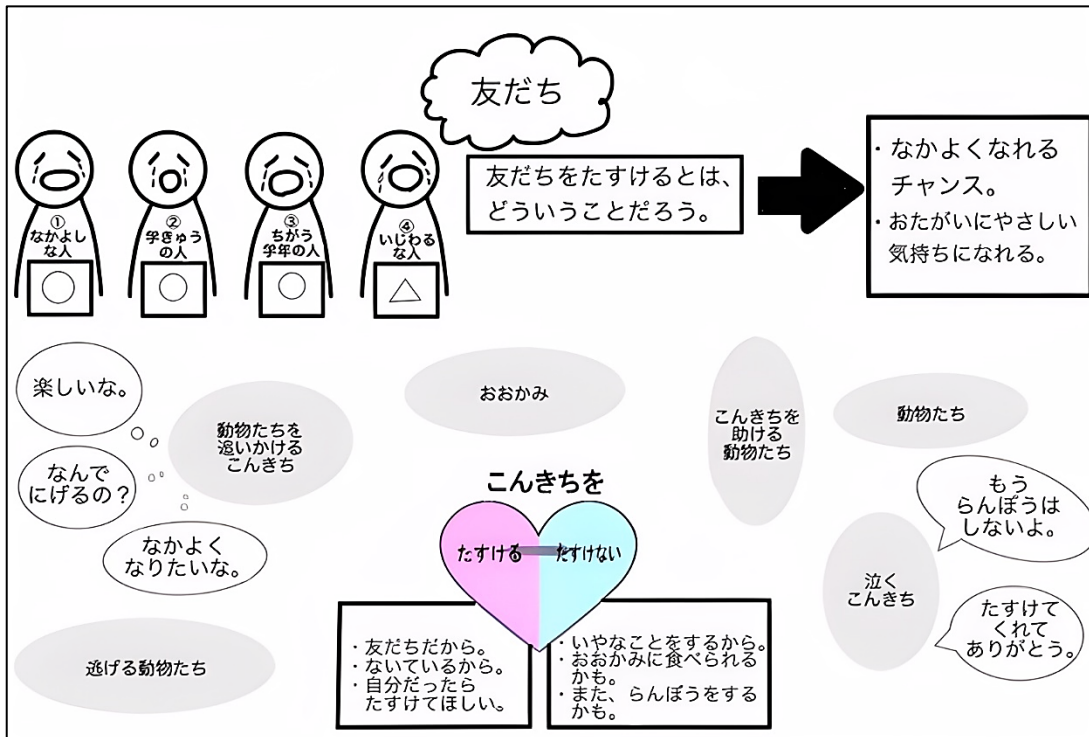
(4) 本時の評価

- 7 本時の計画の(2) 児童の実態と個別のねらい及び評価の観点に応じて、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかの視点で評価を行う。(発言・ワークシート)

(5) 準備物

- ①教師：教科書、ワークシート、大型テレビ、タブレット端末
②児童：教科書、ワークシート、タブレット端末

(6) 板書計画



(7) ワークシート

16. 森のともだち

名まえ

① らんぼうをしているこんきちは、どのような気持ちなのだろう。

逃げる動物たち

動物たちを追いかけるこんきち

② さいしよは らんぼうをしていたのに、「ごめんよ。」と言いながら大ごえでなき出したこんきちは、どのような気持ちなのだろう。

ごめんよ、ごめんよ。

泣くこんきち

③ かんそう(心にのこったことや、おもったことを かきましょう。)